

「脱炭素」プロジェクトについて

川崎市市制100周年記念事業・
全国都市緑化かわさきフェア実行委員会事務局

COLORS, FUTURE! ACTIONS
KAWASAKI 100th





プロジェクトの企画内容について

プロジェクトの進め方について
(実行委員会主催事業の実施スキーム)

脱炭素プロジェクトの目的



大目的

市民ひとりひとりが
自発的に環境によいアクションをとる
文化や新しいライフスタイルをつくる



今年度のスコープ



自分らしく環境によい
宅配受け取りのライフスタイル



自分らしく環境によい
食ロスのないライフスタイル



自分らしく環境によい
移動のライフスタイル

物流業界における現状と課題



現状

近年、多様化するライフスタイルとともに宅配便の個数が増加している一方、宅配便の再配達はCO2排出量の増加やドライバー不足を深刻化させるなど、重大な社会問題の一つとなっている。

環境問題

宅配便の再配達によりCO2が余計に排出されており、環境問題の深刻化につながっている。

CO₂排出量への影響

年間**42万トン**のCO₂を余計に排出

$$36\text{億個} \times 0.58\text{km/個} \times 25\% \times 1\text{t} \times 0.8\text{kg-CO}_2/\text{t}\cdot\text{km} = 42\text{万t-CO}_2$$

宅配便取扱個数 (平成26年度) 宅配便1個当たりの走行距離・再配達を減く
再配達比率 積載量の平均を1tと仮定 営業用小型車のCO₂排出量単位

1年間の再配達によって排出されるCO₂の総量【1】

東京ドーム約170杯分に相当

$$\text{約}42\text{万t-CO}_2 \times 509\text{m}^3/\text{t} = 210,840,000\text{m}^3$$

$$210,840,000\text{m}^3 \div 1,240,000\text{m}^3 = 170$$

物流の2024年問題

2024年4月からトラックドライバーの時間外労働の960時間上限規制と改正改善基準告知が適用され、労働時間が短くなることで輸送能力が不足し、「モノが運べなくなる」可能性が懸念されている。

- 現状の再配達率：11.8%
- 再配達が多い層：共働き世代・一人暮らし

労働生産性への影響

年間1.8億時間、**9万人***に相当する労働力が再配達に

$$36\text{億個} \times (97\text{万回} \div 410\text{万個}) \times 0.22\text{時間} = 1.8\text{億時間/年}$$

宅配便取扱個数 (平成26年度) 全不在回数 (平成26年) 全貨物個数 宅配便1個の配達に係る作業時間 = **9万人相当***の労働力

*平均労働時間8時間/日、年間労働日数250日と仮定

課題

環境問題と物流の2024年問題解決のために、市民ができることは再配達を減らすこと
⇒ 市民の意識変容/行動変容が喫緊の課題

事業計画 (R5年度プレ実証の取組)



2023 / 企画概要

〇〇week (仮称)

「知ってもらう×体験してもらう」をベースに
荷物受け取りにおける市民の環境行動変容 (宅配ボックスの利用) を促すイベント期間

知ってもらう



宅配ボックスラッピング・SNSキャンペーン・
街中のメディア媒体 (サイネージ等) により
物流課題を周知

体験してもらう



企画 (利用者特典等) により利用ハードルを下
げ、初回利用及び利用の継続を促す

事業計画 (R5年度プレ実証の取組)



2023 / 企画概要

市民の意識変容/行動変容がどれくらいCO2削減量につながったかを
ダッシュボードとして可視化



2024~ / 最終ゴール

市民： 川崎発の、自分らしく環境によい宅配受け取りのライフスタイルの創出と定着
事業者： 業界課題の解決（市域の再配達率：xx%削減 → CO2排出量：xxt削減）

実施スキーム（R5年度プレ実証の取組）



2023 / スキーム

ヤマト運輸株式会社

- 物流領域での主導
- 市民周知（SNS等）

Packcity Japan株式会社

- 宅配ボックス関連の主導
- 市民周知（宅配ボックス上等）

川崎市

- スキーム構築での主導
- 市民周知（行政広報・地域連携等）

富士通株式会社

- ICT領域での主導
- デザインノウハウの提供
- 市民周知（Green Carb0n Club）

2024~ / 仮スキーム

物流業界横断、他業界縦断（発送元/小売り等）の参画によるプロジェクト拡大

収支計画（R5年度プレ実証の取組）



収入〔千円〕	
企業支出	2,000
実行委員会予算	2,000
計	4,000

支出〔千円〕	
ラッピング(約10万/台)	1,000
利用者特典（景品等）	500
作業委託（仮）	500
広報	2,000
計	4,000

収支計	0
------------	----------

今年度スケジュール



11月のワークショップの様子





プロジェクトの企画内容について

プロジェクトの進め方について
(実行委員会主催事業の実施スキーム)

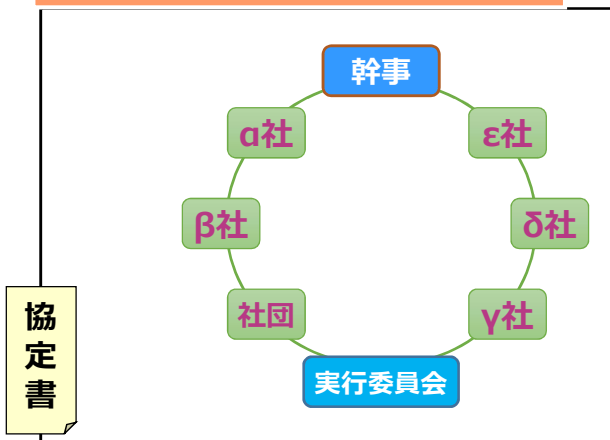
実行委員会主催事業の実施スキームの特徴



パターン① 協定書方式

プロジェクトの継続実施を目指し、協定を基に参加各企業が連携して共創事業を実施する場合

〇〇プロジェクト



協定書方式の特徴

- 〔会計〕 協定に参加する企業（主幹事等）による会計処理（企業経理）
- 〔責任〕 協定に基づく各企業・団体等の責任
- 〔実行委員会の位置づけ〕
実行委員会は協定を締結する一員として参加

市制100周年
実行委員会

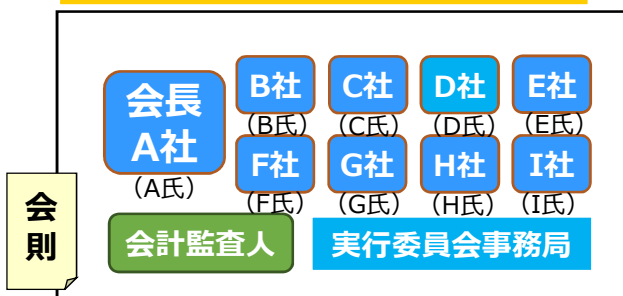
負担金

報告

パターン② 製作委員会方式

新組織・別組織による事業継続実施を目指し、新たな団体・組織を立ち上げて共創事業を実施する場合

〇〇製作委員会 団体



製作委員会方式の特徴

- 〔会計〕 製作委員会による会計処理（団体経理）
- 〔責任〕 代表者（個人）の無限責任
- 〔実行委員会の位置づけ〕
事務局は構成メンバーの一員として参加

※パターン①・②共に実行委員会からの負担金支出ルールは同様

実施スキーム選択の視点



想定スキーム	プロジェクト名	実施スキーム選択の視点
協定書方式	脱炭素プロジェクト	R7年度以降も本プロジェクトが継続して実施されることを目指し、企業・団体が連携して事業化するスキーム。
	みどりの共創プロジェクト	
	提案型事業	
製作委員会方式	フェス&カンファレンス (Colors,Future! Summit 2024)	新組織・団体を立ち上げて、R7年度以降も当該団体が自走・継続できるよう資金を募りながら、本プロジェクトを事業化するスキーム。
委託等	公共空間を活用した賑わい創出プロジェクト 「みんなの川崎祭」	実行委員会によって共創の場を創出し、多様な主体を巻き込むプロジェクトを企画・運営するスキーム。
検討中	音楽プロジェクト	※事業企画と合わせて、製作委員会方式、協定書方式、委託等を含めそれぞれのプロジェクトに最適な実施スキームを検討中。
	かわさき100 (飛躍) 祭	